資料２－１

「第３次宇都宮市男女共同参画行動計画」の評価と課題について

基本理念・基本目標

基本理念

1
男女の個人としての尊厳の尊重

2
性別役割分担を反映した慣行にとらわれない活動の自由な選択

3
方針の立案及び決定への参画機会の確保

4
家庭生活における活動と他の活動との両立

5
男女の生涯にわたる健康の確保

6
国際社会における動向の留意と協調

基本目標

男女共同参画社会の実現

Ⅰ　男女共同参画意識が定着した社会の実現

Ⅱ　さまざまな分野における男女共同参画社会の実現

施策の方向

施策の方向１
性別による固定的な役割分担や慣行の見直し

施策の方向２
男女共同参画の視点に立った教育の推進

施策の方向３
男女がともに活躍できる分野の拡大

施策の方向４
意思決定の場における男女共同参画の推進

成果指標の達成状況

基準値（Ｈ２３），実績値（Ｈ２８），目標値（Ｈ２９）

指標①　社会全体で男女の地位が平等になっていると感じる市民の割合

基準値：２０．２％　⇒　実績値：**１８．８％**
目標値：３０．０％
（出典：宇都宮市「市政に関する世論調査」）

（参考）
国：２４．６％（Ｈ２４）　⇒２１．１％（Ｈ２８）
（出典：内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」）
県：１８．５％（Ｈ２１）　⇒１１．６％（Ｈ２６）
（出典：栃木県「男女共同参画社会に関する意識調査」）

指標②　「男は仕事，女は家庭」という考え方について肯定的な市民の割合

基準値：９．４％　⇒　実績値：**７．２％**
目標値：５．０％
（出典:宇都宮市「男女共同参画に関する市民意識調査）

（参考）
国：１２．９％（Ｈ２４）　⇒　８．８％（Ｈ２８）
（出典：内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」）
県：９．２％（Ｈ２６）
（出典：栃木県「男女共同参画社会に関する意識調査」）

指標③　地域などで社会的な活動を行っている市民の割合

基準値：４９．８％　⇒　実績値：**３０．６％**
目標値：６３．０％
※前回調査と質問形式が異なる
（出典:宇都宮市「男女共同参画に関する市民意識調査）

（参考）地域活動やボランティア活動に参加している市民の割合　５６．５％（Ｈ２８）
（出典：社会教育・生涯学習に関する市民意識調査）

指標④　審議会等委員に占める女性の割合

基準値：２５．１％　⇒　実績値：**２４．６％**
目標値：３０．０％

（参考）
市区町村　２６．０％（Ｈ２８）
（出典：内閣府「女性の政策・方針決定参画状況調べ）

分析・評価

グラフは参考資料２参照

・「家庭」，「職場」，「学校教育」の分野では，「平等感」は増加したが，「政治」，「社会通念・慣習・しきたりなど」の分野では，「男性優遇」が増加
・全体として，男性より女性の不平等感が強く，「家庭」において顕著
・「社会通念・慣習・しきたりなど」の分野で「男性優遇」が高く，６０代男性で８割超え
⇒　グラフ１－１～１０

【評価】
・「家庭」，「職場」など身近な分野における「平等感」は高まりつつあり，啓発の効果が伺えるが，依然として社会全体では，男性優遇が根強い。

・「性別による固定的な役割分担」を肯定する割合は，５０代以上の男性が他の世代より高い。
・２０代においては，「家庭生活における夫婦の役割分担は同程度」と回答する割合が高い。
・児童においては，「家事及び学校内での役割」は，「男女の性別にとらわれることはない」が約８４％で平成２３年度より約１０ポイント増加
⇒　グラフ２－１～９

【評価】
・児童等を対象にした学習の効果もあり，若年層に対する意識の醸成は図られているが，中高年世代には，依然として性別による固定的な役割分担意識が根強く残る。

・２０代～５０代までは男性よりも女性の参加割合が高い。
・参加できない理由　⇒　「時間，関心，活動の情報がない」
・「地域活動において希望どおりに時間が取れている」のは３割以下で，「家庭生活」，「個人の生活」，「休養」の６～７割に比べて極端に低い。
⇒　グラフ３－１～３

【評価】
・「地域活動」について，仕事が忙しく希望どおりに「時間が取れていない」実態が伺え，退職に伴い，女性と男性の参加割合が逆転している。

・公募委員の募集情報の提供や企業の女性社員向け講座等を実施し，リーダーの育成に取り組んできた。
・女性登用が進まない理由　⇒　「団体からの推薦のため」
「充て職を依頼しているため」
「該当分野に女性が少ないため」
⇒　グラフ４－１～４

【評価】
・審議会等における公募委員の募集に繋がる取組などを行ってきたが，推薦母体など団体や専門分野における女性の参画が進んでいないことも一因にあり，増加に繋がっていない。

課　題

・「家庭」，「職場」などの身近な分野で平等感は高まりつつあるものの，「社会通念・慣習・しきたりなど」の分野など，依然として男性優遇で平等感に男女差もあることから，男性にも焦点をあてるなど，効果的な啓発方法を検討していく必要がある。
⇒　課題①

・若年層の性別による固定的な役割分担意識は男女とも低くなってきているが，特に中高年男性においては，根強く残っていることから，中高年の働く男性を対象とした講座等を開催するなど，各年代に合わせた意識の醸成を図る取組が必要である。
⇒　課題②

・働き盛りと言われる世代の男性の社会的な活動への参加割合が低いことから，特にそれらの世代や企業におけるワーク・ライフ・バランスを推進することにより，希望どおりに仕事以外の時間が確保できるよう環境を整備するとともに，地域活動においても性別による固定的な役割分担意識が残っていることから，より多くの市民が参加できるよう市民協働の意識の醸成，社会的活動への情報提供が必要である。
⇒　課題③

・推薦団体等の女性活躍も今後の課題であるが，審議会等委員について，担当部門から団体等に対し，女性の推薦を働きかけるなど，意思決定の場における女性の参画を進めるために，より積極的な取組と女性リーダーの育成が必要である。
⇒　課題④